



特集 議員も驚く厳しい質問  
**子ども議会**

←児童たちは町議会12月定例会で、一般質問を傍聴したり、議会事務局職員から議会の仕組みなどレクチャーを受けてから、この日のためにクラス全員で質問を考えてきました。

三上晃太郎議長(後半)



長尾蒼太議長(前半)



**中里駅を中心に、もっと中里のPRを**

〈質問〉 中里駅と中里をもっとにぎやかにしたい。駅は静かすぎて入りづらい。全体的に汚れていて、イベントも少ない。鉄道利用者以外の人も来るよう、中里の食材を使った駅弁や、車内で特産品を売ってはどうか。

〈答弁〉 小野町長  
駅ナカにぎわい空間では年間30回ほどイベントを行っており、昨年の来場者数は約1万8千人となっている。もっと多くの人が来るような催しものを行っていききたい。

〈再質問〉 来場者のほとんどは高齢者では。

〈答弁〉 小野町長  
ご指摘のとおり。色々と工夫して若い人にも大いに来ていただけるようにしていく。



子どもたちのアイデアを町政に反映させようと子ども議会が、2月12日(水)役場議場で行われました。中里小と薄市小の児童15人が子ども議員として町長や教育長と議論しました。

本番が始まり、小野町長が「みなさんの意見が、町政に反映されることもある。今日の議論を楽しみにしている」とあいさつし、15人が順に質問者席に立ちました。子ども議員たちは、パネルを使うなど工夫をこらしながら、それぞれ質問をぶつけていました。

最後は加藤教育長が「みなさんはよく町を観察している。次は中学生として町に意見を出して欲しい」と講評しました。

傍聴席では、沖崎町議会議長ら5人の町議会議員が見守り、「大人もびつくりの厳しい質問だ。私たちの目の届かない部分も見ていて、見習うべき所がある」と感心していました。

**町のイベントについて**

〈質問〉 イベントが少ないので町民誰もが参加できるものを季節に1、2回は実施してほしい。運動公園で桜祭りをしてはどうか。

また、スキー大会など対象が小学生までのイベントを、中学生まで参加できるようにしてほしい。

〈答弁〉 小野町長  
ヤリイカ味覚まつりやウオーキングなど町の特性を活かした四季のPRイベントを開催している。桜祭りについては早速担当課と検討したい。スキー大会だが、来年は10周年記念として幅広い世代が参加できるようにしたい。その後も中学生らが出場可能な大会にしていければと思う。



**防雪柵設置について**

〈質問〉 竹田モーターズ近くの一本道や大沢内公民館前のバス停付近、大沢内駅付近の道路、宮野沢の一本道に防雪柵を増やしてほしい。

〈答弁〉 小野町長  
竹田―若宮集落間の防雪柵については、平成28年に設置予定である。大沢内公民館バス停付近は、県が溜め池までの区間を整備する予定があるので、防雪柵も設置してもらえるよう要望する。さわやか団地―運動公園間については、集落内の道路を通ることで問題を解消できるため、設置は予定していない。

〈再質問〉 県への要望はいつ行うのか。

〈答弁〉 三上環境整備課長  
5月頃を予定している。



**若い人が楽しく農業に取り組むために**

〈質問〉 町で農業をする人の数が減ってきていると思う。原因は若い人の農業離れがあるのではないか。楽しく農業ができ、続けたいと思えるような取り組みをしては。

〈答弁〉 小野町長  
国の補助を活用し、新しく農業を始める人には最長5年で年額150万円を支給する事業を行っている。これまでに8人の該当があった。農家のグループをつくり、県内外へ視察研修を行って人材育成もしたい。また、アイデア次第で楽しい農業ができると考えている。農家の中には冬期間にハウスで野菜づくりを行うとき、暖房費を節約するため、燃料に食用油の廃油を使っている人もいる。



**少子高齢化について**

〈質問〉 少子高齢化が話題となっている理由は、若者がいないからではないか。若い人が暮らしたくなる魅力的な町になれば、子どもが増えるのでは。シヨッピングモールなどみんなで楽しめる交流の場があれば良いと思う。

〈答弁〉 小野町長  
少子高齢化の原因は、生まれる子どもの数が減る一方で平均寿命が延び、高齢者が増えるためである。また、働き手である人口が減少している。この問題について町が行っている対策は、農産物加工販売施設ピュアや新しい町営住宅の建設、道路や下水道の整備、イベントの実施などである。今後も夢と希望が持てるまちづくりに取り組んでいく。





### 安心安全でナンバーワンの運動公園にしたい



〈質問〉 公園にあるローラー遊具だが、ビニールシートがかぶせられたまま放置状態である。また、この遊具に手をはさんでけがをした人もいる。修理をするか、坂を利用したすべり台など新しい遊具を設置して欲しい。

〈答弁〉 加藤教育長

西北五管内の陸上大会はすべてここで行われ、ほぼナンパーワンといっても良い。危険な遊具は直ちに解体する。新しい遊具だが、議員が提示した図も参考にしたい。

〈再質問〉 なぜ放置していたのか。

〈答弁〉 加藤教育長

資金がないと新しい遊具を購入できない。早めに町長に依頼したいと思う。

### ゆるキャラをつくる計画はあるか



〈質問〉 ゆるキャラをつくり、町の魅力を全国にPRしてはどうか。例えば相撲をアピールできるようなものや、特産品にちなんだものはどうか。計画はあるか。町民にアイデアを募集しては。

〈答弁〉 小野町長

町では合併10周年記念事業の一環で、町をイメージしたユニークで親しみやすい、ゆるキャラをつくる計画をしている。デザインを町内外へ募集し、2体制作する予定。皆さんには大いに応募して欲しいと思う。

〈再質問〉 募集は何月か。

〈答弁〉 小野町長

4月から作業に取りかかる予定。早く募集、審査を進めて皆さんに披露したい。

### わんぱく広場の遊具の作り替えについて



〈質問〉 わんぱく広場の鉄棒が曲がっている。さらに、ブランコも古くなっていて危険である。新しいものに作り替えて欲しい。

〈答弁〉 小野町長

4年前に遊具の総点検をし、危険なものは撤去した。わんぱく広場の遊具も点検したが、鉄棒とブランコが危険であれば撤去しなければならぬ。将来的には取り替えを検討する。保育所や小学校は優先的に交換してきたため、今はそちらを使って欲しい。

〈再質問〉 撤去はいつ頃か。看板などを立てて遊べないようにして欲しい。

〈答弁〉 小野町長

今年早急に撤去する。看板の設置も行う。

### 安心安全な通学路にするために



〈質問〉 五林、向町、学校の校門―踏切間など外灯を増やして欲しい。暗いため不審者や交通事故について親に心配される。人通りの少ない道は特に危険だと思う。下校時間に合わせて、地域の方にパトロールもお願いしたい。

〈答弁〉 小野町長

通告書の場所については防犯灯の増設が可能であるため設置可能なところから順次実施していく。下校時の地域の方によるパトロールだが、関係者の協力と支援が必要ない面もある。しかし、貴重な提案として教育委員会とも協議、検討する。これからも安心して暮らせる犯罪のない町づくりを努めていく。

### 旧今泉小学校体育館の有効活用を



〈質問〉 校舎は博物館になっているが、体育館は使われていないため、休日に開放してはどうか。スポーツ大会があれば参加したい。以前は荒馬や太刀振りなどの指導と練習の場になっていたそうだが、復活させてはどうか。

〈答弁〉 小野町長

薄市小に統合したとき、体育館は災害発生時の避難所及び今泉地区の防災センターとして活用すると国へ報告している。その関係上、今すぐは無理でも、1日も早く開放できるように検討したい。

〈再質問〉 開放はいつ頃になるか。

〈答弁〉 小野町長

国の意見を聞き、早く要望に応えられるよう努力する。

### 可燃ごみと不燃ごみの回収日について



〈質問〉 ごみが散乱して道が狭くなっている日があり、通学バスに遅れそうになったことがある。可燃、不燃ごみの収集日を週2日にしては。

〈答弁〉 小野町長

8月は生ごみが多く出るため週2回収集しているが、年間を通し回収を増やして欲しいという要望は今のところ出ていない。夏場にも調査し、必要なら集積所の設置についても検討する。

〈再質問〉 他市町村では収集日が週2日である。なぜ1日にしたのか。

〈答弁〉 三上環境整備課長

8月以外は多く出ていると認識しているため、週1回としている。今後ごみの量を調査して検討していく。

### 買い物代行サービスを行っているかどうか



〈質問〉 介護保険非該当になった高齢者などで、車やバスを利用するのが難しい人に対し、買い物代行サービスを行っているかどうか。

〈答弁〉 小野町長

買い物代行サービスに代わるものとして、ヘルパーが買い物に行く、閉じこもり防止のために話し相手になるなど、高齢者が安心した生活を営めるよう支援する事業を行っている。これからは町においても現在のサービスを見直し、高齢者の方がさまざまな支援を利用できるようにしていきたいと考えている。関係団体や民間事業者、地域住民らの協力を得て、支え合う町を実現できるように取り組んでいく。

### 薄市・今泉農村公園の整備について



〈質問〉 公園の遊具はさびたり壊れているものがある。子どもからお年寄りまで楽しめる公園にしてほしい。薄市、今泉農村公園の整備についてどう考えているか。新しい遊具を設置する計画はあるか。

〈答弁〉 小野町長

町の遊具については、4年前に総点検を行った。その際に使用は可能だが、部分的な修理が必要とされたものも多い。利用状況を考え、町内の遊具全体について計画的に修繕と撤去をしなくてはならない。農村公園は住民憩いの場であり、児童の安全な遊びを確保することも目的に設置している。きれいな環境で気持ちよく遊んでもらえるよう、改善に努めていく。

### 町にみんなが利用できる小児科や眼科を



〈質問〉 中泊町には小児科と眼科がなく、町外へ行かなければならない。通院時間や診察の待ち時間が長くて町民が困っている。小児科と眼科をつくって欲しい。

〈答弁〉 小野町長

町から最も近い小児科は金木に、眼科は五所川原にある。当町に小児科の専門医はいないが、町内の医師の方々は学校検診も行っており、小児科の診察もできる。中泊町で乳幼児を対象に開院しても経営が難しいと考える。現在ある医療機関と連携し、有効に活用していくことが重要である。最後に、各学校のみなさんの中から医師を目指す方が生まれれば際には、ぜひ町内で活躍してほしい。